進化し続ける魂

モータースポーツを熱狂させた OZレーシングの40年

過酷なラリーを生き抜くための信頼性
セリカとともに世界を席巻したホイールは
いかにして生まれたのか
名作の不変の魅力を紐解いていく

Text/RALLY PLUS, Photos/Jun Ururno, McKlein, TOYOTA, OZ

McKlein

まるであつらえたかのような完璧なマッチングを見せたセリカGT-FOURとラリーレーシング。カルロス・サインツの実力も相まって人気を不動のものとした。

McKlein

写真は93年ニュルブルクリンク。アルファロメオ155 V6 TiとメルセデスS190E 2.5-16 Evo Ⅱがともにラリーレーシングを装着。

McKlein

パンク後も走り続けたラリーレーシングはリムが削れ、地金がむき出しに。それでも破損しない耐久性の高さが信頼感につながる。

現在、WRCのトップカテゴリーを走る3ワークスチームの足元を支えているのが、OZレーシングの競技用ホイールだ。ラリー用ホイールには、あらゆる路面や天候でも決してドライバーを裏切らない信頼性が求められる。パンクを喫したマシンがホイールだけでSSを走り切り、フィニッシュへとたどり着くシーンは誰しも観たことがあるだろう。ホイールは、路面とタイヤとマシンをつなぐ、まさに要と言える存在であり、時には過酷なラリーを生き残るためのツールとも成り得るものだ。トップカテゴリーのシェア100%という数字は、各チームから絶対的な信頼を得られているからにほかならない。

往年のラリーファンにとって、OZレーシングの代名詞とも言えるホイールは、グループA時代のトヨタ・セリカGT・FOUR（ST165）に装着されて勝利を挙げ、一世を風靡した『ラリーレーシング』だろう。以来モータースポーツのアイコンとして君臨し、WRC以外の様々なカテゴリーでも勇名を馳せている。このラリーレーシングは、デザインの再解釈を受けて現代に甦った2代目や、誕生40周年を記念して製作された『RR40』も高い人気を獲得し、トヨタGRヤリスなどのスポーツカーユーザーだけでなく、輸入車やネオクラシックカーユーザー、昨今のレストモッド層にも深く受け入れられている。

現場から生まれた機能美

いまなお錆びつかないデザインをもつディッシュタイプのホイールは、いかにして生まれたのか。時計の針を40年前に戻して、その生誕のストーリーを追っていこう。

OZブランドが生まれたのは、今から55年前、1971年のこと。イタリア・ベネツィア近郊にてシルバーノ・オゼッラドーレとピエトロ・ゼンによって設立された。社名はふたりの頭文字をとったものだ。最初に世に送り出した製品は、ミニ・クーパー用のホイール。優れたデザイン性と耐久性で、ストリートはもちろんレースやラリーなどのモータースポーツユーザーからも支持され人気を博していった。転機が訪れたのは84年。競技用ホイールの専門会社『OZレーシング』の立ち上げに際し、クラウディオ・ベルノーニをディレクターに迎えたことから、大きな歯車が回り始めた（ベルノーニは現在OZ本社の取締役会長である）。

かつてライバルとも言えるスピードラインでモータースポーツに携わっていたベルノーニは、最高峰への挑戦を掲げF1アルファロメオ・ユーロレーシングチームに2ピースホイールの供給をスタートした。

当時のラリー用ホイールはスポークタイプが主流で、グラベル（未舗装路）では石や泥を巻き込み、ブレーキシステムに噛み込んだり、足まわりにダメージを与えることも少なくなかった。マディなコンディションではホイールに泥が付着し、ホイールバランスを著しく悪化させる。そうした現場の悩みを前職時代に聞いていたベルノーニは、大胆なディッシュタイプのデザインを採用することを決めた。ディッシュが異物が入り込むことを防ぐガードの役割を果たすだけでなく、ブレーキ周辺の空気を整流して冷却効率を向上させ、泥の付着によるバランス悪化も防止した。さらに、白いホイールのディッシュ部分に生まれた〝余白〟には、赤く目立つようにOZレーシングのロゴが配された——『ラリーデビュー』の誕生である。トヨタ・セリカGT・FOUR（ST165）とともに、世界の舞台に打って出た。このデザインはセリカの赤／白のカラーとベストマッチし、当時勢いに乗る若手カルロス・サインツらの活躍で、ラリーファンを熱狂の渦に巻き込んだ。OZレーシングは91年にラリーレーシングの市販バージョンをリリース。多くのクルマ好きが愛車に装着し、日本でも爆発的なヒットとなった。

このデザインはST165の後継たるセリカ4WDターボ（ST185）が纏ったカストロールカラーとの親和性も高く、ラリーレーシングの人気はますます強固なものとなっていった。その熱は他カテゴリーへも伝播。当時ハイテク化の一途をたどっていたDTMでは、空力特性の良さからアルファロメオやメルセデス・ベンツが採用し、サーキットシーンでもその名声は高まり続けた。

このラリーレーシングと並行して、5本スポークホイールの象徴的存在となる『クロノ』、プジョーやシトロエンが装着しターマックラリーで無敵を誇ったマルチスポークの『スーパーツーリズモ』などが次々と登場。モータースポーツからストリートまで、OZは多くのユーザーの心をつかみ、現在に至っている。

伝統は未来へと続く

2017年、ラリーレーシングは現代的なデザインの再解釈を施されて復活を果たす。往年のラリーファンだけでなく、近年のクルマのデザインにもフィットするディテールは、当時の活躍を知らなかった若者たちにも受け入れられた。そして22年、OZ本社とOZジャパンはTGR・WRTとの初コラボレーションモデル、『スーパーツーリズモTGR・WRT』を発売。さらにSUV向けの『ラリーデザートTGR・WRT』、24年にはコラボレーション第3弾となる『ラリーレーシングTGR・WRT』を世に送り出した。WRCの最前線で戦うTGR・WRTにOZホイールの高い信頼性が認められた証であり、ユーザーに対する品質の担保とも言える。

26年のWRC開幕戦モンテカルロからは、TGR・WRTのレッキ車両に『スーパーツーリズモTGR・WRT』が装着されている。レーシングスピードではないとは言え、ラリー本番と同じ道を走るレッキに耐えられる品質を備えていることの、なによりの証左と言えるだろう。

そして26年4月、ラリーレーシングの誕生40周年を記念した〝RR40（アールアールフォーティ）〟が世に送り出された。象徴的なディッシュデザインとレーシングスピリットをこれまでのモデルから継承しながら、現在の車両に求められる強度・剛性へとブラッシュアップを果たしている。

なぜ今、人々は再び〝あのデザイン〟に惹かれるのだろうか。そこには、かつてラリーレーシングを世に送り出したベルノーニが持つ〝現場の声を聞き形にする〟姿勢と哲学が、最新のRR40にも宿っているからだ。ホイールはクルマと路面を繋ぐ唯一の接点であり、モータースポーツにおいては時に勝利と敗北を分かつ最後のパーツともなる。OZレーシングが刻んできた轍は、今もなお多くのモータースポーツチームを支え、そのテクノロジーを引き継いだストリート用ホイールは、エンスージアストの足元を彩り続けている。

ベルノーニが夢見た世界一のホイールへの挑戦は、時代を超えてこれからも進化し続けていく。

TOYOTA

開幕戦ラリーモンテカルロでは、5台のGRヤリス・レッキカーにスーパーツーリズモTGR-WRTを装着。ラリージャパンでも注目だ。

J.Ururno

2025年のラリージャパンでは、ラリーレーシングTGR-WRTが登場。TGRのホスピタリティブースに展示され関係者からも注目を集めた。

OZジャパンの
最新情報はこちらから
https://www.ozracing.com/jp/

OZ

会長のクラウディオ・ベルノーニ（右）とCEOのエロス・サレッタ。55周年式典に向けて来日、OZジャパンとの打ち合わせを行った。

2026年新商品
OZ Racing - RR40

レースホワイト

ハイパーチタニウム

サイズ展開表

※17インチより随時展開

サイズ		H-PCD	IS	ハブ	価格(税込)
17	7.5	4-98	35	58.06	69300
		4-98SB	35	S	69300
		4-100	35	S	69300
			42	S	69300
		4-108	20	L	69300
			38	L	69300
		5-100	44	S	69300
		5-108	53	60.06	69300
		5-112	45	L	69300
		5-114.3	45	L	69300
18	7.5	5-100	38	S	90200
			44	S	90200
		5-108	45	L	90200
		5-112	35	L	90200
			40	66.56	90200
			50	L	90200
		5-114.3	38	L	90200
			48	L	90200
		5-120	47	XL	90200
	8	5-100	35	S	91300
			48	S	91300
		5-108	45	L	91300
		5-110	38	65.06	91300
		5-112	35	L	91300
			45	L	91300
		5-114.3	36	L	91300
			45	L	91300
	8.5	5-100	45	S	92400
		5-114.3	30	L	92400
			38	L	92400
	9	5-100	45	S	93500
		5-114.3	30	L	93500
			38	L	93500
		5-120	50	XL	93500

※ハブ：S=φ68/L=φ75/XL=φ79、数値＝各車ハブ専用
※SB：スライドボルトを使用するPCD